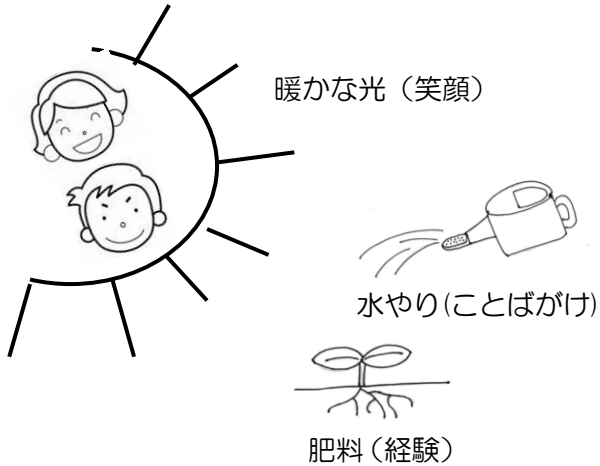


ことばの芽

～暮らしの中で育もう～



赤ちゃんはことばの種（ことばを獲得する力）をもって生まれてきます。種を育てるには「暖かな光（笑顔）」「水やり（ことばがけ）」「肥料（経験）」が必要です。

☆ことばが育つイメージは…

暖かな光（笑顔）

ママ、パパ、身近な人が笑顔で接してくれると、子どもは安心してやりとりしたくなります。時には相手をするのが大変に感じてしまうことも…そんな時は大人も気分転換を。肩の力を抜いて自然体で関われば大丈夫。

水やり（ことばがけ）

子どもの興味に合わせながらゆったりとことばがけをしていきましょう。



肥料（経験）

人とふれあう楽しさを伝えましょう

抱っこしたり、あやしたり、手遊びや追いかっこなど子どもが喜んでくれるふれあい遊びを繰り返し楽しみましょう。

生活の中で経験することを大切に

食べたり、着替えたり、お風呂に入ったり、寝たり…毎日の繰り返しの中で、周囲のいろいろなことに気付くようになります。自分でやりたがる時期がきたら、うまくできなくても挑戦させてあげましょう。いろいろな興味が広がるとことばのイメージも膨らみます。

「遊び」の経験を広げよう

ことばが出る前から、いろいろなものや出来事への関心は広がります。遊び方にこだわらず、自由な発想で楽しみましょう。地域子育て支援センターなど仲間がいる場所で、ママ自身も気分転換をしながら、子どもの経験を広げていきましょう。

☆働きかけのポイント

子どもからのメッセージをキャッチしよう

子どもは、見て・聞いて・触れて…いろいろな方法で、周囲の人や物からの情報を受け止めようとします。泣いて・笑って・声を出して…全身でメッセージを発信しています。子どもの心の動きに合わせてことばがけをしていきましょう。コミュニケーションが広がり、ふと気がつくと、ことばの芽が出て葉を広げていきます。

遊びやかかわりのヒントを知りたいとき

⇒ 各地域子育て支援センターへ

ことばの育ちに心配があるとき

⇒ ことばと発達の相談室へ

月～金 9:00～17:00（要予約） ☎411-6745



八千代市イメージキャラクター「やっち」

☆ こんな時期にこんなやりとりを…

しぐさや動作、音の真似を楽しむ始めた時期

まねっこが始まると「まねをさせよう」とすることが増えますが、子どもがやっているしぐさや発声をまねしてみてください。まねっこがもっと広がりますよ。

・手遊びいろいろ

あがりめさがりめ、げんこつやまのたぬきさんなど。

・いないいないばあ

手のひらの他に、ハンカチやカーテン、お人形を使っても楽しめます。

・歌ったり、身体を動かしながらのリズム遊び

指さしが出始めた時期

興味があるものに子どもは指さしをします。指さしは子どもからの大切なメッセージです。「○○いたね。」など応えてあげましょう。身振りなどを使うと子どもにわかりやすく、まねっこもしやすくなります。（手を広げて『ブーン、飛行機ね』など）

ことばが出始めた時期

子どもが言ったことばに、子どもの伝えたいことを少し想像して付け加えてみましょう。

例) 子どもが犬をみて「ワンワン」

⇒ 大人 「ワンワンかわいいね」

ことばの理解も進んできます。「～もってきて」「パパに持って行って」とちょっとしたお手伝いを頼んでみましょう。